

医療器械総合商社が主導する データ活用による集患戦略

～DPCデータ×オープンデータ×BIで「現状可視化・課題抽出・KPI」を回す～

渡邊 新之介

(株式会社栗原医療器械店 メディカルリレーションシップマネジメント部 部長)

医療経営士3級
認定登録番号：
31210119090069

【目的】

人口減少と競争激化の中で、当該医療機関の診療特性に適合した持続的な集患を実現することを目的とする。

院内の実績と地域需要のギャップを定量化し、訴求すべき診療科・疾患領域を明確化するとともに、継続的なKPIマネジメントの仕組みを構築する。

【実施方法】

院内DPC(様式1・Dファイル等)と各省庁オープンデータ(人口動態・医療資源・地理統計)を結合し、BIでダッシュボード化する。①「集患現状の可視化」：診療科／紹介元／地域／術式・疾患別市場／流入出を見える化。②「診療科別課題の抽出」：平均在院日数・手術比率・病床稼働率・紹介率・外来新患等を指標化。③「KPIマネジメント」：目標・責任者・アクション・期限を紐づけ月次レビュー。代表KPI例：紹介率＝紹介入院数／全入院数、商圈シェア＝当院退院数／地域総退院数、予約充足率＝充足枠／設定枠

【実施期間】

2025年9月～継続中

【考察・結果】

本取組は試行段階であり、現時点の成果は医療機関側の反応ベースにとどまり、仕組みの構築段階となる。

暫定ダッシュボードを用いた集患現状・トレンドの可視化により、紹介元・地域別の偏りと診療科別

の潜在需要が示唆された。

短期の成果目標は、重点診療科・商圈の特定と合意形成、導線は正や紹介ルート再設計・広報配分見直しの施策候補抽出。

次に、①定義・算出ロジック標準化、②可視化基盤整備、③月次運用のルール化、④利用部門教育、⑤匿名化・権限制御・監査ログによる統制を実装し、「集患現状の可視化→診療科別課題の抽出→KPIマネジメント」のPDCAを定着させて経営改善を加速させる。

